

スノーボード

スペシャルオリンピックス(SO)のスノーボード公式スポーツルールは、全てのスペシャルオリンピックススノーボード競技において適用される。国際的なスポーツ組織として、スペシャルオリンピックスは国際スキー連盟（FIS）のスノーボードルール（参照：<http://www.FIS-ski.com/uk/rulesandpublications.html>）を基に、スペシャルオリンピックス公式スポーツルールを定めた。スペシャルオリンピックスのスノーボード公式スポーツルールおよびスポーツルール第 章 総則と矛盾する場合以外はFISおよび国内スノーボード連盟（NGB）のルールが採用される。矛盾する場合は、スペシャルオリンピックスのスノーボード公式スポーツルールが適用される。

参考:スペシャルオリンピックス スポーツルール第 章 総則

http://www.son.or.jp/pdf/athlete/program/rule/general_rules.pdf

行動規範、トレーニング基準、医療および安全面の必要条件、ディビジョニング、表彰、上位レベルの競技会への進出条件とユニファイドスポーツを参照してください。

セクション A - 公式種目

以下はスペシャルオリンピックスにおける公式種目の一覧である。

これらの種目は、あらゆる能力のアスリートに競技する機会を提供することを目的としている。各国プログラムは提供する種目、および必要に応じて、それら種目の運営方針を決定することができる。コーチは、それぞれのアスリートの技術と興味に応じて、適切なトレーニングの提供と種目を選択することに責任がある。

1. 10m 滑走
2. グライド
3. スーパーグライド
4. 初級スーパージャイアントスラローム（スーパーG）
5. 初級ジャイアントスラローム
6. 初級スラローム
7. 中級スーパージャイアントスラローム（スーパーG）
8. 中級ジャイアントスラローム
9. 中級スラローム
10. 上級スーパージャイアントスラローム（スーパーG）
11. 上級ジャイアントスラローム
12. 上級スラローム

セクション B - 競技施設

1. スロープは長さ、幅、それに難度において競技者の能力にあったものでなければなら

ない。全ての競技と練習用の設備は安全でなければならない。

2. 可能な限り、競技場や練習会場まで直接、またはなるべく近くまでリフトが利用できるようにする。
3. 全てのレースのゴールエリアは、競技者が安全に停止できるだけの十分な広さがなくてはならない。可能な限り、全てのゴールエリアは観客が中に入れないようにフェンスを設置しなくてはならない。
4. 暖をとる施設はスロープと駐車場から行きやすくなくてはならない。この施設は悪天候の場合にスペシャルオリンピックス関係者一同を収容するだけの広さがなくてはならない。ボランティアの登録はこの施設内にて行う。表彰式は、悪天候の場合のみこの施設内にて行う。
5. 駐車場は、競技のボランティア、スペシャルオリンピックスのスタッフ、コーチとアスリートに十分なだけの広さがなくてはならない。身体に障害のある方に適した駐車場を使用できるようにしなければならない。また、緊急用の車両が入れるようにしておかなければならない。
6. 補助設備
 - a. スノーボードの保管室
 - b. スノーボードの準備室
 - c. スペシャルオリンピックスの用具の保管室
 - d. スノーボードレンタル
 - e. コーチ用の会議室
 - f. 以下のための屋根のある施設
 - 1) 審判員の会議室
 - 2) 競技の計時と計算
 - 3) スタートエリア

セクション C - 用具

1. スノーボード種目の全ての能力レベルにおいてアスリートの公式練習および競技会では、全ての前走者と競技参加者は、アルペンスキーレース用に認定（国際スキー連盟、FIS）されたヘルメットの着用が必要である。またコーチが競技場へのアクセスを認められるためには、ヘルメットの着用が必要である。

2. アスリートは適切なスノーボード用の競技ウェア(スノーボードあるいはスキー用パンツ・ジャケット、グローブ等)を身につけなければならない。スタート審判員は、アスリートが適切な修正を行う前にスタートすることを避けるための裁量を有する。
3. アスリートは予選と決勝で同一の競技ウェアとスノーボードを使用しなければならない。競技ウェアの変更(たとえば、ジャケットからレーシングスーツ)あるいは用具の変更(フリースタイル用のボードからレース用ボード)などは失格となる。
4. スキー場では全ての種目に対して十分にスロープを整備し、設備の整備をしなくてはならない。雪の状態が悪い時はコースを維持するための道具(レーキ、シャベル、雪を固めるための化学薬品)が使われる。また、これらの道具はスキー場に備えておく。
5. スラローム、ジャイアントスラローム、およびスーパー-Gのゲートは、外側のポールと回転する側の短い2本のポールからなる。三角の旗をゲート下部の雪面上につけなければならない。パネルの短い側または回転する側は、ベルクロ(マジックテープ)または他の適当なもので括り付けて、ポールから取り外しできるようにしなければならない。全ての種目でパネルを使用する。スタートゲートの次の第1ゲートは常に赤色でなくてはならず、ターンは右から左で始まる。
6. コース設定する者は雪の中にポールを立てるためのドリルを用意しておく。
7. レース会場全体は十分に保護されなくてはならない。安全面の理由により、可能な限りコースをフェンスで囲って一般のスキーヤーやスノーボーダーから引き離し、スキー禁止エリアとしなければならない。フェンスを設置し、保護を行うのはスキー場の責任とする。
8. スタートとフィニッシュには旗を使う。
9. 可能な限り、バックアップ装置のついた電気計時器を使う。これが出来ない時は、手動操作機器で計時して構わない。ゲート審判は2分間ルールのための2分間計時に責任を持つ(2分間ルールを参照)。
10. 次のような内容の放送をする。
 - a. 開催中の競技と結果のアナウンス
 - b. 競技種目のアナウンス
11. インフォメーションの掲示

- a. スタート順の掲示：アスリートのスタート順、ビブナンバー、他のインフォメーションをスタート地点に掲示する。
 - b. 結果（タイム）の掲示：フィニッシュエリアの後方に、アスリートの名前、スタート順、ビブナンバーを表にして、結果（タイム）を掲示する。
 - c. 一般インフォメーションの掲示：一般インフォメーションと告知は、競技施設、表彰場、および宿舎のなるべく近くに掲示する。
12. スキー場ではスキーパトロールが競技におけるあらゆる医療上の必要性と処置を監視できるようにしておく。医療ボランティアが参加する場合は、スキー場が医療行為を調整しなければならない。
13. 競技中、スノーボード装具の修理道具は、公認のメンテナンス担当者によって使用される。
14. 競技会場、医療従事者、ボランティアの調整者、そして競技役員間の情報伝達システムが適切でなければならない。
15. 競技や種目の役員をはっきりさせることは有用であり、また必要でもある。大会本部は識別する手立てとして腕章やウインドブレーカー、または帽子を支給するとよい。
16. スノーボード競技のコースは、アルペンスキー競技とは別の会場に設置すべきである。別の会場に設置できる場合、アルペンジャイアントスラローム用のゲートやダウンヒルのゲートの代わりに、スノーボードのゲートを使用する。

セクション D - 役員

- 1. アルペン審判員
 - a. 審判員
 - b. 競技責任者
 - c. コース責任者
 - d. スタート審判員
 - e. フィニッシュ審判員
 - f. アシスタント審判員
- 2. 役員 - 審判員以外の役員
 - a. 旗門責任者
 - b. 計時計算責任者

- c. レースセクレタリー
- d. 医療責任者
- e. インフォメーション責任者
- f. 競技用具責任者
- g. コースセッター
- h. コースセッターアシスタント

3. 臨時の補助ボランティア要員

- a. 旗門員
- b. 前走者
- c. コース進行係：世話役
- d. コース係
- e. 計時計算係
- f. 医療 / スキーパトロール
- g. 走者
- h. スタート・フィニッシュ審判員のアシスタント
- i. アナウンサー

セクション E - 競技ルール

1. 一般的なルールと修正

- a. FIS ルールによって、スペシャルオリンピックスのアスリートおよび競技指導者は、世界規模で標準化されたスノーボード競技を行うことができる。しかし、FIS のルールはかなり高度な技術を獲得している競技者のみが参加するような競技会を執り行うために書かれていることを忘れてはならない。スペシャルオリンピックスのスノーボードアスリートにおいてはそのように高度な技術を獲得しているものの数は極めて少ない。それゆえ、全てのスペシャルオリンピックスアスリートの能力にあったスノーボードコースを設定することが適切である。FIS の規定（ゲートの数、垂直のゲートの組み合わせ、高低差）は競技能力の低いアスリートにとってはあまりにも険しくて長すぎる地形にコースを設定している。スペシャルオリンピックスのスノーボードコースは、我々のアスリートに合わせて FIS のルールを修正している。ただし、コース設定の規則、すなわちゲートの数、ポールから折り返しポールまでの距離、スタートとフィニッシュエリアに必要なものは、主として FIS ルールと同じである。スペシャルオリンピックス冬季競技の公式ルールに記載されているように、特定の修正ルールは FIS の規則と置き換えられる。

b. ディビジョニング

1) 初級、中級、上級のアスリートはその能力に応じたレベルに修正されたジャイアントスラロームのコースで2回試技を行い、速い方のタイムを競技するディビジョンを決めるために使う。競技開催側のスケジュールが許す限り、ディビジョニングのためのタイムトライアルはスラローム、ジャイアントスラローム、およびスーパー-Gで行う。それぞれのクラスでの最初の滑走は試走のタイムが一番速かったものからスタートし一番遅かったものが最後となる。

c. スタート地点：全てのスタート地点は、アスリートがリラックスした姿勢で立てるようにしておくこと。また、スタート地点に楽に行くことができるようにするとともに、一般のスキーヤーの流れからこの地点を守るように配慮する。

d. 2分間ルール：競技の間に競技者がコースの線から外れた場合（転倒、ゲートの回り損ね等）競技者はコースに戻るために、脱線した時点より2分間の猶予が与えられる。2分以内にコースに戻れなかった場合や何らかの援助を受けた競技者は失格となる。失格は違反が起こった場所に一番近いゲートに配置された旗門審判員のゲートカードによって決定される。旗門員は責任を持って2分間を計る。

e. スタートの合図：スペシャルオリンピックスのスキー種目の全てのレベルにおいて、スタートの合図は次のようにする。「5・4・3・2・1・GO」計時はアスリートの前足のブーツがスタートラインを越えた時もしくは、電気計時標識が動き出した時から始まる。

f. ゲートライン：ゲートラインは、折り返しポールによって決まる。

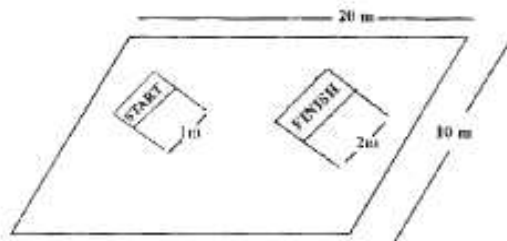
g. 正しい通路：ゲートは、アスリートのスキーボードの先端と両足がゲートラインを過ぎたときに、正しく通過したものとす。スタートおよびフィニッシュラインも同様である。

h. 競技者が自分のスキーボードの最先端と両足がゲートラインを越える前にポールを垂直の位置から動かした場合は、スキーボードの先端と両足は元のゲートライン（雪に印をつける）を越さなければならない。

2. ビギナーのためのスノーボード種目

a. 10m滑走

1) 図表



2) 準備

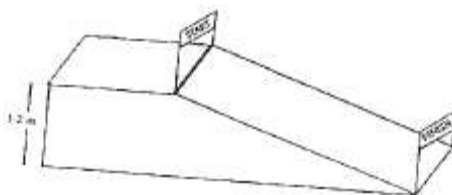
- この種目のために横 20m、縦 10m の平坦な場所を用意する。
- 本部と登録場所になるべく近い場所にしたい方がよい。
- 1m 間隔で 2 本のポールを立て、その間の雪上にスタートラインを引く（色をつける）。
- スタートから 10m 離れた所に 3-4m 離して 2 本のポールを立て、その間の雪上にフィニッシュラインを引く。

3) レースの進行

- アスリートはスタート時に前足ブーツのみをバインディングに固定し、スタートラインに置く。アスリートはスタート時にスタート審判よりバランスやポジションを保つための援助を受けてもよい。
- 「5.4.3.2.1. GO」という合図でアスリートはスタートエリアから離れる。もしアスリートのスタートに問題があった場合は、アスリートはスタート審判員から前進する援助を受けてもよい。
- アスリートの前足がスタートラインを越える時に計時は開始する。
- アスリートはスタートからフィニッシュまで交互にフリーの足で押し、またスノーボードで滑りながら前に進む。
- アスリートの前足がフィニッシュラインを越える時に計時は終了する。

b. グライド

1) 図表



2)コースの設置 (初心者向けのコースは本部に近い場所で)

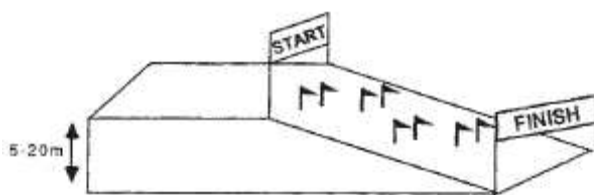
- a) 斜面の高低差は1~2mにする。
- b) 斜面の全長は10~15mにする。
- c) 斜面はなだらかでフィニッシュ地点は平坦になるようにする。
- d) スタート地点は平坦にし、平坦な部分が斜面にかかる点にスタートラインを引く。
- e) スタートラインを挟んで1mの間隔に2本のポールを立てたものをスタートゲートとする。
- f) フィニッシュラインを挟んで4mの間隔に2本のポールを立てたものをフィニッシュゲートとする。なるべくフィニッシュ用の旗を使用すること。

3)レースの進行

- a)アスリートはスタート時に両足をバインディングに固定し、前足のブーツをスタートラインに置く。アスリートはスタート時に審判よりバランスやポジションを保つための援助を受けてもよい
- b)アスリートは「5・4・3・2・1・GO」の合図でスタートを切る。もしアスリートが上手くスタートできないときは、スタート審判員はアスリートが前方に動き出せるように援助してもよい。
- c) アスリートの前足のブーツがスタートラインを越えるときに計時は開始する。
- d) アスリートはスタートからフィニッシュまで滑る。
- e) アスリートの前足のブーツがフィニッシュラインを越えるときに計時は終了する。

c. スーパーグライド

1) 図表



2) コースの設置 (初心者向けのコース本部に近い場所で)

- a)斜面の高低差は5~20mとする。
- b)コースの幅は最低25mとする。
- c)コースの全長は50~100mとする。

- d)滑走面はなだらかで凸凹や逆斜面がないようにする。
- e)持続的な木の葉落とし、横滑り、ターンを可能にするために、3本から6本のゲートを律動的に設置する。
- f)スタート地点は平坦にし、平坦な場所が斜面にかかる点にスタートラインを引くか計時バーを設置する。スタートラインの幅は1m以内とする。
- g)フィニッシュ地点は少なくとも幅4mにし、アスリートが平坦な場所に滑ってこられるようにする。

3) レースの進行

- a) アスリートはスタート時に両足をバイディングに固定し、前足のブーツをスタートラインに置く。アスリートはスタート時にスタート審判よりバランスやポジションを保つための援助を受けてもよい
- b)アスリートは「5・4・3・2・1・GO」の合図でスタートを切る。アスリートが上手くスタートできないときは、スタート審判員はアスリートが前方に動き出せるように援助してもよい。
- c) アスリートの前足のブーツがスタートラインを越えるときに計時は開始する。
- d) アスリートの前足のブーツがフィニッシュラインを越えるときに計時は終了する。

4) スキルレベル

このレベルのアスリートは横滑りおよび木の葉落としの演技が可能で、両足を固定しても滑る際にバランスを保つことができる。

コースの設計

3. コース仕様

種目	ゲートの数	高低差	コースの幅	クラス
a. 初級者用のコース設計				
スラローム	5～15	15～50m	40m	初級者
ジャイアントスラローム	5～15	20～70m	40m	初級者
スーパー-G	5～12	25～70m	40m	初級者

b. 中級者用のコース設計

スラローム	15～30	30～100m	40m	初・中級者
ジャイアントスラローム	15～30	50～150m	40m	初・中級者
スーパー-G	10～20	50～200m	40m	初・中級者

c. 上級者用のコース設計

スラローム	20～45	60～200m	40m	中級者
ジャイアントスラローム	20～40	100～300m	40m	中級者
スーパー-G	15～35	150～350m	40m	中級者

4. 種目の修正

a. 全種目 コースインスペクション。 審判の判断において、コース視察の時間は公式前走者のリードでアスリートが列になって非常にゆっくりとしたスピードでコースを滑ることで代替される場合がある。

b. ジャイアントスラロームおよびスラローム

- 1) ジャイアントスラロームとスラロームのレースは、2回の計時滑走からなる。それぞれ2回のタイムを合計した結果が表彰の対象になる。
- 2) 審判員の判断により、2回目の滑走時はコースが修復される。
- 3) ジャイアントスラロームとスラローム種目において、アスリートの1回目の滑走のタイムがそのディビジョンでの2回目の滑走のスタート順を決める。1回

目の滑走で遅かったものが最初にスタートし、一番速かったものが最後にスタートする。失格者も 2 回目の滑走をしても良いが、その場合はそのディビジョンの最後に滑走する。

c.スーパーG

- 1) 競技開催側は競技するアスリートの能力に合わせてスーパーG 競技の難易度を変更しても良い。
- 2) 全てのアスリートは競技の前に一度だけ同じコースを練習のために試走しなければならない。
- 3) 競技開催側は試走タイムを計時しても良いが、これは競技のスタート順には影響しない。
- 4) スーパーG 競技は計時された 1 回の滑走によりなる。

<スペシャルオリンピックスのスポーツプログラムを実施するに当たっての留意点>

スペシャルオリンピックスの正式なスポーツプログラムとして活動する場合には、事前に最寄りの地区組織事務局、又はスペシャルオリンピックス日本事務局にご連絡ください。